

いのち  
生命の水 うるおす未来

# アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2021年冬

144



特集

新型コロナ禍の中で③





since 1979

公益社団法人アジア協会アジア友の会  
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

# JAFS

## ● 主な目次 ●

「巻頭言」「いのちの水」にご参加ください 02

特集＝新型コロナ禍の中で③ 04～09

発症、提携団体の幹部も 高額治療で  
やっと助かった／孤独と家族への責任に  
悩む／働かせるな！ 学ばせよう！／障  
がい者を取り残させるな／スラムの人々  
を飢えから救え

スラムの子が学べる新校舎もうすぐ完成 10

ネパール報告 11

オンラインで国際ネットワークセミナー 12

「活躍するアジア人」＝新企画 13

「井戸ができた村」 14～19

「JAFS プラザ」＝国内の活動 20～23

コロナ困窮留学生 生活と心を支える／  
3密避けて竹の径 長岡京の歴史学ぶ／  
拾ったどんぐり、奈良の鹿のえさに／「生  
きたアジア」市民大学が再開 他

JAFS 集めるキャンペーンのお願い 23

新入会員紹介・領収報告 24・25

「新・the 社会貢献」 26

「環境コラム」 27



## アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2020年3月現在、井戸建設（累計2113基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

## 本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

## 巻頭言

2020年6月13日。第9回JAFS社員総会が開催されました。その席上で、新スローガン「いのちの水を」が承認されました。これまで慣れ親しんでいた「なくそう貧困。命の水を！」のスローガンが今後使用されないことに、一抹の寂しさは正直ありましたが、一昨年40周年を迎えるにあたり新たな気持ちで未来に進むためにも、新スローガンはともにもいいことだと思えます。「なくそう貧困。命の水を！」も「いのちの水を」もおす未来も本質的には同じ意味合いで「いのちの水」に対する考え方に変わりはない訳です。

## 「いのちの水」にご参加ください



湯川 剛

アジア協会アジア友の会  
理事長

トで小さな会社でしたが、今から思えばデカすぎるタイトルを使用したものだと思えます。さて、持続可能な開発目標SDGsが2015年9月、国連で採択され、昨今日本国内でもSDGs実施に向けた地方創生や国際協力の取り組みが活発に進んでいます。さらにそれが企業間でも広がりがつつあり、改めて「地球は水浸しの星である」や「なくそう貧困。命の水を！」や「生命の水を」の言葉

代目理事長でありました田中久雄氏が辞任され、私が引き継ぐことになりました。田中前理事長は2000年4月から2020年6月までの20年間をJAFSの先頭に立ってやって来られました。まさにJAFSの歴史そのものを作って来られた訳です。特にフィリピンの「パンダン水道プロジェクト」をはじめ、多くの功績を残された後を私が引き継ぐのはいささか「格落ち」であります。が、先程申しました資金集めや会員集めに邁進したいと思えます。

● プロフィール ●  
ゆかわ・たけし 1947年大阪府生まれ。70年株式会社OSGコーポレーション設立。88年JAFS入会。95年47歳で関西大学入学、99年同大学卒業。2001年株式上場。07年社長交代、代表取締役会長に就任。20年6月JAFS理事長。

以上

## JAFS 会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。



新型コロナウイルス感染症の大流行は、発生から1年を経ても、全く収束する兆しが見えません。ワクチンや治療薬の開発が待たれる中、インドとネパールでは、JAFS提携団体メンバーが感染してしまいました。幸い快復し、闘病体験と各国医療事情を伝えてきました。他にもアジア各国から、コロナ禍の下での学校、障がい者、スラムなどの様子が、皆さまからのご支援への感謝とともに届きました。これまでにいただいたコロナ関連のご寄付は、各国への支援と、在日留学生の生活支援などに使わせていただいています。

# 発症、提携団体の幹部も



集中治療室で、高濃度酸素マスクによる治療を受けるカシナートさん＝インド、マハラシュトラ州ナグプールの私立救命救急病院

## 高額治療でやっと助かった

●インド 11月18日  
カシナート・デオガデーリマハラシュトラ州RUDYA代表

私は新型コロナウイルスに感染しました。まず熱と少し咳が出ましたが、無視して仕事を続けていました。熱を下げるためにサチ病院に行き、注射を打って戻りました。家族は私にガッチロリの公立病院でPCR検査を受けるよう勧めました。10月10日、私は検査を受け、陽性が判明しました。

### 甘く見て病状が深刻化

医者の勧めで入院しましたが、まだ症状はひどくなかったため、私はコロナを軽視していました。

入院し、コロナに効くと思われる薬を服用し始めると、大量の薬のせいか、血糖値が高くなり、薬の効能が失われてしまいました。次第に健康状態は悪化し、入院12日目に撮ったレントゲンでは、肺の90%が感染していることが分かりました。医師は治療薬として、通常の薬を使用していました。レムデシビルは供給が少ないこともあり、非常に深刻な患者のみに投与されていたためです。

悪化の一途をたどる私の病状を見て、息子をはじめとする家族や友人が言いました。「お金は気にせず、ナグプールにある私立病院に行こう」と。私たちは、ナグプールの私立病院に行

くことを決めました。私は酸素飽和度が大幅に低下していたので、この決断は非常に重要でした。

### 私立病院へ転院を決断

息子が酸素供給のある救急車を1台予約し、10月22日の夜にナグプールの病院に向かいました。ガッチロリからは車で4時間かかります。道路は舗装されておらず救急車は古かったので、この4時間は私にとってはとても深刻でした。医師や看護師の引率はなかったため、息子が私の体のパラメーターを確認し、私たちが今向かっていることをナグプールの病院に連絡し、緊急治療室の準備をするよう求めました。

10月23日の午前2時頃、ネクター救命救急病院ナグプールに到着し、私は集中治療室に連れていかれ治療が始まりました。私の状態は非常に深刻で、医師は息子に3日間はどうなるかわからないと告げました。医師たちは、人工呼吸器の助けを借りずに私の酸素飽和度を維持しようと決めました。彼らは高濃度で酸素を供給するバッグとマスクを使用しました。医師は私にコロナの血漿療法を行い、すぐにそれが機能し始め、私の体も薬に反応し始めました。幸いにも私は生き残り、そして正常に快復しており、医師はとても奇跡であると言いました。

私の治療費の合計は60万ルピー（約84万円）でした。公立病院は料金を請



地方都市ガッチロリの公立病院④と大都市ナグプールの私立病院⑤。新型コロナ治療の設備や医療体制は、公立病院と私立病院で大きな差がある＝インド、マハラシュトラ州





## アジアの新型コロナ感染症 累計感染者数と累計死者数

WHO（世界保健機関）など調べ

|                | 感染者数      | 死者数     |
|----------------|-----------|---------|
| <b>インド</b>     |           |         |
| 5月5日時点         | 46,433    | 1,568   |
| 6月19日時点        | 381,091   | 12,604  |
| 9月15日時点        | 4,926,914 | 80,808  |
| 12月15日時点       | 9,906,507 | 143,746 |
| <b>インドネシア</b>  |           |         |
| 5月5日時点         | 12,071    | 872     |
| 6月19日時点        | 42,762    | 2,339   |
| 9月15日時点        | 221,523   | 8,841   |
| 12月15日時点       | 623,309   | 18,956  |
| <b>カンボジア</b>   |           |         |
| 5月5日時点         | 122       | 0       |
| 6月19日時点        | 129       | 0       |
| 9月15日時点        | 275       | 0       |
| 12月15日時点       | 362       | 0       |
| <b>シンガポール</b>  |           |         |
| 5月5日時点         | 19,410    | 18      |
| 6月19日時点        | 41,473    | 26      |
| 9月15日時点        | 57,454    | 27      |
| 12月15日時点       | 58,325    | 29      |
| <b>タイ</b>      |           |         |
| 5月5日時点         | 2,988     | 54      |
| 6月19日時点        | 3,141     | 58      |
| 9月15日時点        | 3,475     | 58      |
| 12月15日時点       | 4,246     | 60      |
| <b>ネパール</b>    |           |         |
| 5月5日時点         | 82        | 0       |
| 6月19日時点        | 7,848     | 22      |
| 9月15日時点        | 55,329    | 360     |
| 12月15日時点       | 249,244   | 1,716   |
| <b>バングラデシュ</b> |           |         |
| 5月5日時点         | 10,143    | 182     |
| 6月19日時点        | 102,292   | 1,343   |
| 9月15日時点        | 339,332   | 4,759   |
| 12月15日時点       | 492,332   | 7,089   |
| <b>フィリピン</b>   |           |         |
| 5月5日時点         | 9,684     | 637     |
| 6月19日時点        | 27,799    | 1,116   |
| 9月15日時点        | 265,888   | 4,630   |
| 12月15日時点       | 450,733   | 8,757   |
| <b>マレーシア</b>   |           |         |
| 5月5日時点         | 6,383     | 106     |
| 6月19日時点        | 8,529     | 121     |
| 9月15日時点        | 9,946     | 128     |
| 12月15日時点       | 84,846    | 419     |

求しませんが、私立病院は高価で、コロナ治療に対する健康保険はありません。マハラシュトラ州政府は私立病院に15万ルーピー（約21万円）を請求上限とするよう求めています。私は入院が長かったため入院費が倍で、薬代も加算され治療費が高額になりました。

## 貧しい人に届かぬ恩恵

インドでは、公立病院と私立病院で対応が大きく異なります。公立病院は費用負担は少ないが、医者や看護師、医療器具や薬などの不足が起きています。一方、私立病院は治療に対して最善を尽くしてくれますが、費用が高額です。私はありがたいことに、友人や家族が資金を出し合ってくれ、私立病院に行くことができました。

しかし多くの人は私立病院に行く費用がありません。コロナに感染しても十分な治療を受けられず、それゆえ感染が拡大していると思われます。



シュレンドラ・マハラジ  
ヤン＝A F Sネパール

## 孤独と、家族への責任に悩む

●ネパール 11月20日

私はカトマンズの産婦人科の看護師兼麻酔医として働きながら、A F Sネパールの活動に関わっています。新型コロナによるロックダウン下にカトマンズより農村部に医療品を運ぶボランティア活動にも参加してきました。ネパールの医療状況はぜい弱です。集中治療室を備えた病院は公立121

カ所、私立72カ所しかありません。10月に入り1日の感染者数が2千人を越す事態になりました。この状況でもお産は常にあります。妊婦一人では病院に来ることができないため、付き添う家族との接触は避けられません。そんな中ですが正直、「感染しない。大丈夫」と思っていた自分がいました。

しかし9月末に同僚が目の前で倒れその処置をしました。後にそれがコロナ感染によるものと分かった時から私の状況は大きく変わりました。10月5日に体中が痛み出しましたが発熱はなく、インフルエンザのような症状でしたのでコロナ感染しているのか半信半疑でした。しかし息子が発熱し、PCR検査を受けることにしました。翌日陽性の結果が出た時には、一瞬全てに

シャッターが下りたような気分になりました。

離れた部屋に隔離されました。入院は考えませんでした。家よりも病院環境の方が悪いことは十分承知していると共に、感染者数が増えたりにも多く病院の対応許容量を超えた状況から、政府も重症患者以外は自宅隔離を勧めました。私たちは幸いにも夫婦共に医療従事者です。自分たちで何とか処置することを選びました。

人工呼吸器が個人でも買えるという情報が出回っていたため、医療機器取扱者に連絡を入れて買うことにしました。大変高額ですが、完治後、次に必要となった人に売れば、結果無料に近い金額で使えるため、命には変えられないと思ったのです。

数日後、同居の息子と義父も感染していることが分かりました。なぜか妻だけは感染しませんでした。彼女は結核科の看護師なので、コロナに人一倍

気をつけていました。マスクを3枚重ねて常に着けていたことが幸いしたのでしょうか。妻が感染しなかったことで、私たち一家は適切な手当を自宅で受けることができ、重症化することはありませんでした。

症状や後遺症の危険性とともに、何よりコロナ感染の怖さは、精神的な苦悩でした。一人の時間を過ごすなればならない孤独の苦痛から始まり、家族に移してしまったという責任、そして周りからどのように見られているのか、誹謗中傷を受けてないか、そんな精神的重圧が私や家族全員にかかり、その圧力の方につぶされそうでした。

10月28日に私はようやく陰性になりました。11月8日に他の家族も陰性になりました。家族も安全になったということがうれしかったです。

新型コロナウィルスは感染力が強いという事実を、身をもって経験しましたが、栄養がある食物をとれて持病がない人にとっては脅威ではないと思います。感染による精神面の悪化や合併症のほうが怖いと感じました。

新型コロナに関する危険性、感染防止策、免疫力向上についての啓発が、感染拡大や重症化防止につながるはずですが、十分には行われていません。毎日数千人の陽性報告が今もあります。何より政府の体制と市民の対応策が整っていないことが大きな要因だと考えます。

## 働かせるな。学ばせよう



3密を避けて校庭で授業  
インド、カルナータカ州



民家を借りて訪問授業  
インド、マハラシュトラ州ガッチロリ

021年に控えた最上級の10年生だけです。授業は校庭で行っています。ソーシャルディスタンスを保って安全なためです。

長引く休校で、多くの生徒は勉強への興味をなくしました。さらに、失業した親は子どもを働かせることにしたり、女生徒の場合は結婚させることも考えています。教師たちは、子どもたちが希望を失わないよう、可能な限り家庭訪問し家族の状況を見て、勉強を

続けさせるよう説得しています。政府も、教師が親や生徒とつながりを保つよう家庭訪問を求めています。学校の再開は何回も延期され、11月16日から高校のみ再開となりました。政府は、5カ月も再開が遅れていることから、カリキュラムの30%削減を決めました。しかし、再開しても、感染の不安を感じて子どもを学校に行かせようとしないうちが多いのが実情です。

●インド 9月25日

カシナート・デオガデIIマハラシュトラ州RUDYA代表

小学校を政府がいつ再開させてくれるか、定かではありません。都市部のいくつかの修道院付属学校はオンライン授業を始めましたが、私たちのパダトラ小学校では、インターネット環境が整っておらず、児童がスマートフォンを持たないので、不可能です。児童は少数民族出身で、体系的に学ぶ姿勢はおおむね持っていない。私たちは苦勞して彼らを学校教育の中に引き入れたのですが、学習習慣を忘れてしまわないか心配しています。

そこで私たちは、児童が住む近くの村を訪問し、基礎的な授業内容を教えることにしました。9月1日から始め、教師たちが児童の村を訪問して児童を1カ所に集め、宿題を出しました。パダトラ村の児童はパダトラ小学校に集まりました。このようにして、



政府から学校の再開許可が下りるまで、児童たちを、親に連れられて森や農地での仕事に行かないようにします。コロナ禍にあっても、教師たちは児童への教育に力を尽くしています。また、学校再開の前に、校舎の修繕と洗浄をしました。

## 障がい者を取り残させるな

●フィリピン 11月10日

ロケニア・A・カンガイダII AFS パンダン、パンダン障がい者協会

パンダン町では昨年3月からロックダウンが始まって外出が制限され、生活が一変しました。

障がい児童が学校に通えなくなったため、家族が家に残る必要があります。田畑に働きに出られなくなりました。世界で最も美しいビーチの一つと言われるボラカイ島をはじめとする観光業で生計を立てていた多くの人が失業し、現金収入がなくなりました。

協会所属の障がい者は、定期的に通院したり、症状改善のために毎日決められた薬を飲んだりする必要があります。厳しい外出制限が続く中、通院や薬の手配は困難を極めました。また、基礎疾患がある人は、コロナ感染が非常に深刻な問題になりかねません。

地域では、新型コロナウイルス感染者が日に増えています。農村部さえです。そのため政府はロックダウンを続け、多くの人々が仕事を失いました。最近の洪水で多くの田が冠水しました。農民は大きな苦境にあり、私たちに支援を求めています。

私たちAFSパンダンは、政府のコロナ感染防止のルールに従いマスク着用や消毒をし、細心の注意をしながら

ら、行政やパンダン障がい者協会、地域の人々と協力し、次のような活動をしました。

①障がい者登録カードの発行  
医薬品と食料を購入するときに20%の割引を受けられるカードをまだ持っていない障がい者がいたため、普及を促進しカード発行を進めました。町の人たちの温かい協力のもと、このカードは障がい者の生活を助けています。

②障がい者のいる貧しい家庭への救援物資の配布

貧しい家庭では、仕事ができないとすぐに、今日食べるものを手に入れることが難しくなります。十分な食事が



車椅子が届けられ、自宅周辺を移動できるようになった＝フィリピン、アンティーケ州パンダン町

とれない中、真夏・雨季・台風と季節の変化がもたらす様々な病気にかからないように、町の協力を得て、米や野菜、卵、ビタミン剤などを配りました。不安にさいなまれていた彼らに少し安心してもらうことができました。

③福祉機器の提供  
ロックダウン中でしたが、松葉杖や自具、車椅子などを必要としている人々にできるだけ滞りなく届けられるよう、障がい者協会や行政と連携し、運搬などの協力をしました。移動が制限されて器具を取りに行くことができなかった障がい者の家族に、とても喜ばれました。

◇

10月からは学校の履修登録も始まり、ウィズ・コロナに向けて、生活がまた変わり始めています。昨年JAFSから寄贈いただいたパソコンとプリンターは、障がい者のオンラインでの履修登録に大活躍でした。ご協力、本当にありがとうございます。

新たに今、障がい者自身が将来にわたって生計を助けられるよう、環境に優しいエコブロック製造所をつくるために奔走しています。

多くのことが制限される困難な状況ではありますが、これからも障がい者の生活改善のために、地域のために、懸命に働き続けたいと思います。これからも日本の皆さんの応援よろしくお願い申し上げます。

## スラムの人々を飢えから救え



スラムの子どもに手洗いなどの衛生指導をし、タオルやマスクを配る＝ネパール、シナマガル・スラム

●ネパール 11月5日  
レシナ・バジュラチャリヤII AFS  
ネパール

カトマンズでは2015年の地震以後、スラムが増え始めました。現在そこで3万1000人が暮らすといわれています。大半は貧困ラインを下回り、日銭を稼ぎ何とか生きつないでい

ます。川縁にあり、下痢、コレラ、デング熱、腸チフスなどにかかる危険と隣あわせです。そこをコロナが襲い、彼らの生活を闇に突き落としました。

5カ月もロックダウンが続く、生活が維持できません。絶望から自殺が増え、子どもが飢えに泣いています。無認可のエリアなので、政府からは何の手当もありません。怒りや悲しみのや

り場がなく、いつ暴動が起きてもおかしくない状況になっています。

民間の力で何とか解決しなければと考える仲間のNGOであるフィード・ザ・ハングリー・ネパール、マーマリア青年クラブと協働し、シナマガルのスラム居住区で9月7日、米5<sup>キ</sup>とレンズマメ1<sup>キ</sup>、料理油0・5<sup>リットル</sup>と塩を100家族へ配りました。

「全てが尽きて、4人の子どもに朝から何も食べさせられていない」と訴えてきた女性。彼女の夫は、家族を食べさせられないことや、家賃を11カ月滞納して追い出すぞと脅されたことを苦にして、川に飛び込みました。幸い救助されましたが、その数日前にも、首をつって自殺を図っていました。

この食料配布により、生き倒れそうな人々の飢えを一時でも改善し、尊厳ある生活ができるよう救援できました。私たちは、JAFSの皆さまのご協力に、心から感謝しています。子どもたちに無邪気な笑顔が戻る瞬間を見て心からうれしく感じました。

子どもたちのための衛生と栄養プログラム必要性を感じ、その活動を11月4日に実施しました。高校生の時にアジア・ユース・サミットに参加し、現在医療を勉強しているソニ・カイトイさんが、友人と一緒に、手洗い指導などを買って出てくれました。

11月5日現在、ネパールの新型コロナウイルス感染者は18万5974人、死亡者は

1052人です。今後が増える危険が大いにあります。政府は治療の無料化を公表しましたが、地区長からの推薦書がある場合のみ無料治療を受けることができます。しかし、推薦書を得るまでに悪化してしまう可能性を、皆が感じています。PCR検査しても正しい結果が出るとは限らず、入院して多くの人が命を落としているために、検査を拒否する人たちが多くいます。私立病院では、入院保証金を要求するところも出てきています。結局、費用を払えない人たちは、まともな治療を受けることができません。

政府はロックダウンを発令するだけで補償支援をすることはありません。食べ物を得るために人々が何度も村と街との間を移動したのが、感染拡大の大きな原因であるといわれています。政府は、次の選挙を気にして行動規制をできないようですが、そんな中、各地域で市民同士のつながりが向上したことを感じています。

【訂正】アジアネット143号13ページ「コロナ禍に対するアジア各国の動向」の一覧表のうち「日本国内での主な動き」の5月の欄に「◆死者5千人超える（2日）」とあるのは、「◆死者500人超える（2日）」の誤りでした。お詫びして訂正します。





家庭に設けられたティハールの祭壇＝カトマンズ

ナマステ（こんにちは）。ネパール現地駐在員として11月13日に赴任いたしました。到着してまだ6日目ですが、この1週間で経験したことをお伝えさせていただきます。

乗客はほぼネパール人でした。ネパールでは10月のダサインと並ぶ一大祭のティハールが11月13日から行われるため、飛行機は満席状態。私が利用したネパール航空では、チェックイン時と入国時にPCRの陰性証明を提示する、機内食はなく飲み物と軽食が入った袋が配られる、などのコロナ対策が取られていました。

# コロナに負けず 伝統の祭

揚水事業の  
ネパールに赴任

JAFSネパール駐在員  
中島 彩華

到着日は祭の初日。コロナ禍にもかかわらず帰国するとは、どのような祭なのでしょう。

ティハールは別名「光の祭」とも呼ばれる一大イベントです。幸運と豊穡の女神「ラクシュミ」を家に招いて一家の繁栄を願う祭と言われています。街中がデコレーションやライトアップで飾られます。停電も当たり前と聞いていたので、到着早々、街中が光り輝いている様子を見て驚きました。後で聞くと、ティハールの時期だけは、停電が起きないように電力会社は頑張っているのだとか。

期間中は5日間にわたり毎日異なるお祈りが行われます。到着後2週間は自己隔離が求められているため、私は

宿舎でお世話になっているネパール族のご家族と一緒に祈りに参加させていただきました。なかでも一番印象に残っているのは、最終日の「バイティカ」のお祈りです。姉妹が兄弟の健康を願ってお祈りをします。この日のために姉妹はお祭の準備をし、豪華な食事を作り、贈り物を用意します。兄弟はお礼として衣服や金品を贈ります。

伝統的な様式に従い兄弟の健康を祈願する家族の姿から、ネパールの人々がどれだけ家族を大切にしているのが伝わってきました。

祭の4日目はネパール族の正月にもあたります。4日目と5日目はどちらも伝統衣装に身を包みますが、儀式によってお祈りの時間や衣装が異なることに驚きました。毎日のお祈り様式や衣装、食事など細かいところまで伝統を継承している彼らを見て感動しました。また、家族を何よりも大切にし、コロナにも負けず伝統を守るネパールの人々から、私たちも失いつつある日本の守るべきものに目を向けるべきではないかと感じました。

2年目にかかっているネパールでの揚水事業も、残すところ4カ月となりました。これからプロジェクトに取り組む上で、現地の伝統や考え方を学び、理解し、尊重することを第一とし、人懐っこく愛にあふれたネパールの人々と共に事業地の環境改善と発展に貢献していくと心に決めました。



ビシヤール・フィリップ・パランジャペル・グラム・セワ・サン&AFSナグプール会長

グラム・セワ・サンは、1993年に私の父、故フィリップ・A・パランジャペルによって（インドで）設立された非営利団体です。都市部、農村部、少数民族の地域の子どもと女性の権利を守るため、教育や健康、農業、研究などを支援する活動をしています。

18年前からJAFSと連携し、様々な社会活動を通じて多くの貧しい人々に手を差し伸べ、支援し、貧困削減に協力して取り組んでいます。私たちは社会的弱者の人々が力をつけて自信を持ち、笑顔になって、人と社会全体が発展していくことを目指しています。

私たちが住むナグプールにはスラム

街があります。そこに住む子どもたちは、家族を助けるために仕事をしたり家事をして学校に行けなかったり、行けても毎日通学できる子は多くはありません。親の多くは日雇いの労働者で、食べ物や風雨をしのぐ場所、衣類も十分ではありません。家庭が崩壊して虐待されている子どもたちもいます。私たちも教育を受けていないので、教育の大切さが理解されません。何世代にもわたる貧困から抜け出せず、どうしても日々の生活が優先されます。

私たちはJAFS村上事務局長に励まされ、このような子どもたちが成長して力をつけ、将来仕事に就けるための学習センターとして、チャイルドアカデミー・ナグプールを作りました。各教科の授業、技術開発や社会意識向上のプログラム、社会活動などを行っています。世界の偉人の話をしたり、スポーツや行事、給食なども行っています。子ども一人ひとりが知識を身につけ、得意分野を伸ばし、自分の人生に責任を負う能力を高め、社会に積極的

に関与していくことを願っています。ずっと使っていた校舎が老朽化し、安全とはいえない状況で使い続けるのが大きな悩みの種でした。この度、日本の皆さんの温かいご支援により、新校舎が建てられることになりました。心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響は校舎建設にも及び、工事が遅れてまだ完成はしていませんが、安全できれいな校舎ができつつあります。子どもたちもとても喜んでいきます。今、コロナの状況は少し良くなり、物事はゆっくりと軌道に戻ってきています。完成し授業が再開した時には、子どもたちの声もお届けできればと思います。

ロックダウン中は、子ども向けのプログラムを実施することが禁止されていたので、集まることはできませんでした。多くの家庭で親たちも仕事を失っており、さらに困窮状況にあります。私たちがの活動では彼らを直接助けることができせん。

私たちにできることとして、政府に許可を取り、食料品や感染予防キットなどの必需品を配りました。また今、10〜15人のグループを作って子どもを集め、コロナから身を守る方法について啓発活動を行っています。

私たちは、貧しい子どもたちに対し、彼らが本当に必要なとしている教育の手助けをできることに誇りを持っています。

## スラムの子が学べる 新校舎もうすぐ完成

インド、チャイルドアカデミー



# 代わりにオンライン会議

コロナ対応



オンライン会議に参加中のAFSネットワークメンバー。パソコン上で記念撮影＝11月7日

第30回アジア国際ネットワークセミナーは、2020年10月23日～28日にスリランカで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染の世界的流行のため、残念ながら中止しました。それに代わって、AFSネットワークメンバーの互いの安否を確認し、仲間の状況を共有する機会があればとの思いから、11月7日、2時間と短時間ながら初めての国際オンライン会議を開催しました。

本セミナーは「貧困なき一つなるアジア共同体を目指して～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう」を基本テーマに、AFS（アジア友の会）ネットワークのJAFS提携団体メンバーが中心に集まり、1990年の第1回（タイ・チェンマイ）以来、一昨年まで29回開催してきました。

中止となったのは、米国で同時多発テロ事件が起きた2001年の第12回、新型インフルエンザが流行した2009年の第20回に続き3回目です。バン格拉デシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、ス

リランカ、日本の10カ国から計51名が参加しました。司会進行は、AFS国際事務局のジーナ・ヤップ事務局長が担当。西田貞之ネットワークセミナー担当理事の挨拶、村上公彦事務局長によるメッセージに始まり、各国の提携団体より現況や課題について計13名が報告しました。中には日本のコロナ・ワクチン開発を期待する声も聞かれ、いまだ終息の目途がたない状況に対する苛立ちも見られました。

例年のように直接会っての会議ではありませんが、ほぼ1年ぶりに旧知の仲間の顔を見て安否を知ることができたのは、AFSネットワークの互いの絆を確かめ合う意味でも有意義だったと思います。この状況は当分長引くと予想され、今後は情報交換だけでなく、解決策の検討など掘り下げた内容の会議ができればと考えております。

今回の国際オンライン会議は2月開催予定です。オンラインですので、ご自宅にてアジアの人々との交流や意見交換が可能です。参加をご希望の方は事務局までお尋ねください。

（JAFSスタッフ 柿島裕）

## \*自己紹介と来日の経緯は？

ニックネームはラッキーです。1962年生まれで、大阪市玉造にあるスリランカ料理店「ラッキーランカ」のシェフをしています。初めて日本に来たのは90年。大阪で開催された「花と緑の博覧会」のスリランカパビリオンでカレーを紹介しました。その後、セ

いと思うようになりました。

一番大変だったことは、ビザのことです。妻や子どもと離れて暮らさなければならなかった時期は、つらかったです。時間もお金も失いました。

一番うれしかったのは、一生懸命働いて、スリランカの母や兄弟のために家を建てられたことです。子どもの頃

## コロナ下の留学生に無料で弁当

（韓国）にも参加しました。94年に日本でスリランカ・レストランをするために来日し、奈良県生駒市で「ラッキーガーデン」を始め、その後もうつかの大阪市内のスリランカ料理店で働きました。

## 活躍するアジア人



ラックスマン・フルナンドさん（スリランカ）

からの夢がかないました。\*料理人になったのはどうして？

私は8人兄弟で、母と姉が家の軒先でお菓子を作り販売していたのを手伝ったのが、料理に興味を持ったきっかけです。小さいときは十分に食べられないことも多く、困ったときには周りの人に助けてもらいました。人が集ま

るときには、持つて来ることが出来る人が料理を持ち寄り、みんなで食べるスリランカの文化があります。故郷のスリランカ料理店で、ただで食べさせてもらったこともあります。私も美味しいものを作ってみんなに喜んでもらいたいと思います。料理人になりました。

\*コロナ禍の下では、どうしていましたか？

お店は休まなけりばならなかったの、地域のボランティアの人々と一緒に、仕事が多くなった留学生や学生、シングルマザーの親子、ホームにいるお年寄り、教会に集まる食べられない人々に、カレーのお弁当をつくって無料届けました。

私は日本に来た頃には、玉ねぎと

米だけのカレーを食べられたらいいよ。うな時期もありましたので、できるとをしようと思いました。

しばらくすると、活動を聞いて米や野菜など食材を届けてくれる人が出てきて、より多くの方を応援できるようになり、とてもうれしかったです。

\*コロナ禍で困っている留学生らに無

料でお弁当を提供する姿が、テレビや新聞で紹介されました。ボランティア活動になぜ熱心なの？

私の父はキリスト教徒で母は仏教徒でした。子どもの頃からいろんな活動をしている人に出会いました。私はシンハラ人ですが、タミル人の友達も多く、両方の言葉を話せます。内戦時には心が痛く、悲しい思いもたくさんしましたが、宗教や民族に関係なく、友達になつてお互いに助け合うことはできます。教会で出会った障がい者を支援している女性には、お店でオリジナルスパイスなどを販売して、今も支援金を届けています。JAFSのアジアネットワークセミナーで来日したAFSスリランカのメンバーで、店に料理を食べに来てくれた人とは、連絡を取り合い、彼らの活動も応援しています。

私も大変なとき、困ったときに多くの人に助けられました。2人の子も、上の子は名古屋のホテルに就職し、下の子は大学生として頑張っています。これからもスリランカと日本のためにできることを続けたいと思います。

× × ×

日本に住む外国籍の方が年々増え、ますます多文化共生社会に変わっていきます。一方で、親しく行き来する友人にはなかなかないかもしれません。日本ががんばっているアジアの人々を紹介していきます。



## 夏にも枯れない井戸

村人は全員、少数民族で、森林での仕事で生計を立てています。モハの花や種、テンドウの葉、竹、そして時々蜂蜜を採集します。新しい井戸ができる前は、村にはたった1つの露天式井戸だけありましたが、夏になると井戸の水は枯渇してしまうので、1.5km離れた所にある小さな水路の水を利用していました。不幸なことに、近年は降雨量が少なく、枯渇問題がさらに深刻化していました。今、村人たちは、井戸が設置されとても幸せに暮らしています。



マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区  
ダワリ村 受益者: 500名(56世帯)  
井戸形式: ポンプ式(深さ60m)

【寄贈者】中川喜代子 様

【寄贈者】近畿ろうきん すまいるプロジェクト 様



マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区レクタラ村  
受益者: 430名(45世帯) 井戸形式: 露天式(深さ12m)

## 老人の言葉で水が出た

村に1つだけあった井戸は夏場に水が枯渇し、それが住民の悩みでした。村人たちは何回も井戸を掘ろうと試みましたが、あらゆるところに大きな平石があって、成功しませんでした。村のある老人から、村から500m離れた溜め池を人々が飲料水と生活用水に使用していると知らされ、私たちもその溜め池の近くの場所に井戸を掘ってみると、ついに成功を取めました。寄贈されたこの井戸は水が枯渇することなく、夏にも十分に水が出るので、村人の生活は向上しました。

## 資金不足の井戸建設が支援で可能に

村人は社会的および経済的に弱い立場におり、長年、飲料水の不足という大きな問題に直面していました。そこでHDSI（JAFS提携団体）に支援を要請し、村人総動員で井戸の場所を定め、地方政府から必要な許可を得るために非常に努力しましたが、資金が足りないという財政的理由で井戸建設ができませんでした。この度の支援でやっと、ポンプ式井戸が完成し、十分な飲料水を得ることができるようになりました。村人たちは遠方までの水くみから解放されました。



マハラシュトラ州アムラワティ県モーシ地区ウドヘド村  
井戸形式: ポンプ式

【寄贈者】JAFSぞうすいの会 様

ご寄付には  
税の優遇措置が  
受けられます

## いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2018年4月現在)

インド=60万円 フィリピン=33万円  
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円  
ネパール=17万円 (パイプライン=25～150万円)  
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会  
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会  
06-6444-0587 へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

## みなさんのおかげで 井戸ができた村

水を得て新しい地域づくり 【寄贈者】日本基督教団大和キリスト教会 様

これまで村の人たちは800mほど下った場所にある水源地に2時間かけて毎日数往復して水をくみに行くのが日課でした。雨季には地面がぬかるんで滑り、けがをすることもありました。女性たちにとって家の近くで水をくむことが長年の夢でした。ご支援により水道パイプラインを引くためのタンクを設置し、集落へ水を送ることができるようになりました。集落で水を得られるようになったことをきっかけに、新しい地域づくりを進めていくと女性たちは意気盛んです。



第3州シンドウバルチョーク郡メラムチWord No. 9ジャナリ地区  
受益者: 26名(7世帯) 井戸形式: 水道式

【寄贈者】日本基督教団大和キリスト教会 様

## 幼稚園・小学校に安心な水



第3州シンドウバルチョーク郡インドラワティ村  
受益者: 幼稚園および低学年児童50名 井戸形式: 水道式

タマン族と呼ばれる民族が住む山間地で、発展に取り残された生活を営んでいます。地域の水源が地震で枯渇し、水を得るために山向こうの水源から細いパイプを渡し、400名以上の村人がそれで生活することを余儀なくされていました。今回12,000ℓ容量の集水タンクを作り、パイプを渡している水源の水をタンクに貯め、それを水源として集落ごとに共同水場の設備を設置。初めて水場ができた幼稚園と小学校では、安心して水を飲み、手洗いもできるようになりました。



## ポンプ式井戸で年中水が得られる

この村が直面する主な問題は、毎年彼らの農業に影響を与える干ばつです。彼らが持っていた井戸のほとんどは、夏になると水が干上がっていました。そのため今回は、これまでの露天式井戸ではなく、ポンプ式井戸が設置されました。寄贈された井戸により、夏場も水を確保することができるようになりました。また、井戸によって1年中水を得ることができるので、農業への被害も少なくなりました。村人は寄贈いただいた井戸にとっても感謝しています。



サガイン県タム町タナン村  
受益者…30世帯  
井戸形式…ポンプ式

【寄贈者】高瀬稔彦 様

【寄贈者】株式会社グローアップ 様

## 毎年の水トラブルが解消

インドの東部マニプール州モレとの国境近くの貧しい村です。従来の井戸は、高台の露天式井戸のため夏季の間（3～4月）枯渇してしまい、毎年水不足問題が発生していました。寄贈された井戸によって、飲料水不足問題が解決されました。村人は「毎年水トラブルが起きていましたが、井戸ができたことにより、その問題は解決されつつあります。この水は、私たちが植えた野菜や飼育している家畜にも行き渡るもので、生活が改善されました」と感謝しています。



サガイン県タム町ヴァルパン村  
井戸形式…露天式

## 清潔な飲み水に感謝

最初に井戸を掘り始めた場所は、酸素不足のため作業を続けられず、場所を移して成功しました。雨期（6～7月）は作業が難航しましたが、作業者は雨の中でも努力して掘り終えました。井戸が完成し、飲料水不足の問題は解決されました。以前は飲料水が汚染されており、飲むことを心配していましたが、今その不安や心配はありません。井戸は村にとっても役立っています。村人たちはとても幸せで、貧しい村人たちへの親切な恵みに感謝しています。



サガイン県タム町カラゴン村  
受益者…50世帯  
井戸形式…露天式

【寄贈者】株式会社グローアップ 様

【寄贈者】株式会社グローアップ 様

## わき出る飲料水で心配いらず

村人の多くは、農業をするために、1983年に新設されたこの村に移住してきました。村にあった普通の土井戸は、補強に使うセメントが不足していたため、土がもろくなり崩れ落ちていました。村人の多くは、夏場、飲料水の不足や汚染問題に直面していました。この度、コンクリート製の露天式井戸を寄贈いただけることになり、村人たちは新しい井戸からわき出る水をいつでも飲料水として飲むことができ、うれしく思っています。もう水不足の心配はありません。



サガイン県タム町ジャレファイ村  
受益者…30世帯  
井戸形式…露天式

井戸ができた村

## 安全な水がいつでも近くに

村の近くにはいくつかの水路や溜め池があり、新鮮な水が確保できます。しかしその源流の川は、モンスーンの時期はあふれ、残りの時期は、水位が下がり水が汚染されます。村人は雨水をためる以外は、安全な飲み水を確保するために遠方の村まで行き、深いポンプ式井戸を利用していました。この度、新しく深いポンプ式井戸が設置され、村人の健康被害や水に起因する病気のリスクが軽減されました。いつ雨が降るのか心配することや、遠くへ水くみに行く必要がなくなりました。



ジャマルプール県ゴラダップ地区ジョカBDP小学校内  
受益者：504名(120世帯) 井戸形式：ポンプ式(深さ53m)

## 村人が井戸を大切に管理

この地域の人々は長年、雨水がたまった池や川から飲み水を確保していました。汚れた溜め池の水は、人々に様々な病気や腹痛、下痢を引き起こし、長い間人々を苦しめていました。この新しい井戸が設置され、ベイトマリウツタルパラBDP小学校の生徒や村人は、安全な飲み水を簡単に確保できるようになりました。村人は、新しい井戸を管理するための委員会を設立し、井戸やその周辺を見回り整備しています。生徒・親・教師・村人全員が寄贈者様に感謝しています。



ジャマルプール県バスチャーラ地区ベイトマリウツタルパラBDP小学校内 受益者：470名(40世帯) 井戸形式：ポンプ式(深さ59m)

【寄贈者】太田宜子 様



## 検査で飲用に最適な水質

村には清潔な水が得られる井戸はなかったため、JAFS提携団体サルボダヤが村で調査し、村人たちと相談しながら、現在の場所に井戸を設置することになりました。ご支援により、干ばつ時も心配せずに水を得られる井戸が完成しました。水質検査では飲料水として最適であると分かりました。この井戸で、今まで様々な病気に悩まされていた村人たちの生活は大きく変わりました。村人たちは協力し合って井戸の水を大切に使い、井戸周辺の環境整備を行っています。



【寄贈者】JAFS奈良地区会 様  
中部州キャンディ県マルガマンデニヤ村  
受益者：70名（16世帯）  
井戸形式：露天式（深さ5m）

## 【寄贈者】株式会社グローアップ 様

ジャマルプール県バスチャラ地区バスチャラBDP小学校内 受益者：630名（150世帯）  
井戸形式：ポンプ式（深さ59m）



## 井戸を大事に使います

村人が日常的に利用する水は、近くを流れる川から引いた水路や、雨水がたまった溜め池の水でした。しかし、乾季には水位が下がり淀むので、安全に使えるものではありませんでした。そのため、水が原因と思われる病気に悩まされ続けてきました。また、安全な水をくむために、隣村まで出かけて行っていました。この度、安全な水がいつでも飲める井戸が寄贈され、長年の苦しみから解放されました。村人一同感謝しています。大事に使っていきます。

## 【寄贈者】株式会社グローアップ 様

## 安全な水で健康向上・生活改善



ウバ州バドゥッラ県パスサラ地区パラマハンカダ村  
受益者：115名（25世帯） 井戸形式：露天式（深さ6m）

乾燥地域にある村で、昨今の気候変動により干ばつが頻繁に起こるため、水をいかに手に入れるかは長い間村人にとって深刻な問題でした。唯一の水源である溜め池は衛生的ではなく、乾季には干上がって使えず、遠くの井戸まで水くみに行く必要がありました。ご支援により村に井戸ができ、安全な水が使えるようになったことをきっかけに、健康指導や衛生教育などのプログラムも合わせて行うことができます。村人が感染症などから守られ、生活が大きく改善されてきています。

## 小学生・先生・村人みんなの井戸

井戸がなく川や溜め池の水を利用していた村に完成した井戸は、新しく建てられたBDP教員養成センターの主要な水源として設置されました。養成センターでは、教員を各期70名養成しています。ポンプ式井戸は養成者だけでなく、小学校の生徒や近くの村人も自由に使うことができます。清潔な水の入手に困っていた全ての人に、安全な飲み水を供給しています。全生徒と両親や教師、また村人も、井戸を寄贈してくださった皆様にとっても感謝しています。



ジャマルプール県バスチャラ地区ニワメモリアルBDP教員養成センター内 受益者：315名（105世帯） 井戸形式：ポンプ式（深さ58m）

## 水くみの長蛇の列から解放 【寄贈者】株式会社クレコス にこここ倶楽部 様

従来使っていた井戸は、飲料水に適さないうえに、人口に対して水量が十分ではなく、村の女性や子どもたちが毎日長蛇の列をつくりながら水くみをしていました。水を得るために長時間費やさなければならず、人々の生活に大きな影響を与えていました。この度のご支援で、いつでも安全な水を得られる井戸が完成しました。井戸を使わない時間帯に間違っって人や動物、また落ち葉などが入らないように高さを設け、網をかぶせられるようにし、井戸の周りも整備しました。



東部州アンバーラ県クンブルウエラ村  
受益者：162名（30世帯）  
井戸形式：露天式（深さ8m）

ヌエバエシハ州サンタローザ町トラモ村  
受益者：100名（20世帯）  
井戸形式：ポンプ式（深さ25m）



## 【寄贈者】西宮市立甲陵中学校 様

## 安全で衛生的な生活

この村の人々は、飲み水を得るため遠くの井戸まで歩いて水くみに行くか、購入するかしなければなりません。長い道のりを子どもや女性たちが水くみに行くことは危険が伴い、毎日行けません。また家の水がめに貯めておくと、蚊が発生しマラリヤやデング熱などの原因にもなっていました。手洗いも十分できず、感染症などの病気になる子どもたちやお年寄りも多くいました。この度井戸が贈られ、安全で衛生的な環境の中で、生活を送ることができるようになりました。





国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先

## コロナ困窮留学生 生活と心を支える

コロナ禍の影響で困窮したアジア諸国からの留学生を対象に、生活支援金の助成活動を進めております。今回、その留学生たちと協力いただいた支援者の方々の交流会を、9月27日にクレオ大阪中央にて開きました。金銭的な支援を行うだけでなく、お互いの理解とつながりを深めたいとの思いから催しました。

留学生のほぼ全員がアルバイトを生活の糧にしており、当日もなかなかアルバイトを休めない中、留学生17名を含む総勢38名の参加となりました。

交流会の前半では、支援への感謝の思いと日本で実現したい夢や希望を留学生から語ってもらいました。一人ひとりのスピーチでは、緊張のため、なかなか日本語が出ずに詰まった人も多かったですが、伝えたい内容と気持ち十分に伝わってきました。スピーチが終わった時の彼らの安堵の表情と微笑は、とても印象的でした。

後半では、参加者が一体となり、気軽な会話などで懇親を図りました。ス



### 3密避けて竹の径 長岡京の歴史学ぶ

ピーチでは語れなかった熱い思いや故郷や家族のことなど、話題がたくさんありました。短い時間でしたが、人々とのつながりが図れたと思います。みんなが苦しい状況ですが、寄付支援やこのような活動が彼らにとって支えとなり、コロナ禍に立ち向かえることを期待しています。

(JAFS社員会員 渡辺 治彦)

JAFS京都地区会では、コロナ禍の影響で今年度計画の行事がすべてス

トップしている状況の中、実施可能な行事から始めていこうとの思いで、10月17日、3密を避けられる屋外でのチャリティウォークを開催しました。参加者には、スタート前に検温とマスク着用をお願いしました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、京都府向日市の郷土史を研究されている、地元の柏木信博さんに案内人をお願いし、阪急洛西口に集合し、物集女城跡、竹林公園、竹の径、寺戸大塚古墳、桓武天皇皇后陵、向日市文化資料館と巡り、それぞれの地にまつわるお話を聞きながら約3時間ウォークを楽しみました。当日参加できない方からも心の参加(ご寄付)をいただき、総勢14名の参加でした。

雨に濡れてしっとりとした竹の径や、竹林公園内にある竹の資料館では、竹にまつわる興味深いお話を聞かせていただきました。

向日市文化資料館では、平城京から平安京へ都が移る間の784年から794年までわずか10年の間でしたが、向日市から長岡京の地にかけて都が置かれた「長岡京」に関する資料を見学させていただきました。

JAFS京都地区会では、コロナ禍の状況を見ながらですが、私たちの支援を待っているアジアの子どもたちへの継続的な支援に向けて活動を進めて行ければと思っています。

(京都地区世話人 辻 賢二)

## ネパール揚水事業 元駐在員から聞く



揚水したタンクの水は農業用水や家庭用水に利用されます。

中川さんは、水管理組合の設立、日本から農業人を招いての有機堆肥の指導などの農業基盤作りに取り組みされました。村人の生活の糧として農業を育て、村人とのコミュニケーションが大切と現地でネパール語を必死に学ばれました。でもJAFSはサポート役

## 拾ったどんぐり、奈良の鹿のえさに

JAFS奈良市地区会主催による初のイベント「どんぐりひろい&どんぐ

りクラフト」が11月23日、奈良市の鴻ノ池運動公園内で開かれ、当日の飛び入りも含めて42人(うち子ども14人)が参加しまし

た。参加費は経費を除いてインドの貧しい子どもたちの支援にあてられます。

参加者は、カシやクスギの下で落ち葉をかき分けながらどんぐりを見つけ、袋に入れていきました。約1時間後、全員の袋の重さを量った結果、合計は約14キロでした。続いて同市の西田貴之さんを講師に、屋内で参加親子がどんぐりや木材で工作を楽しみました。みなさんが拾ったどんぐりは、奈良公園の鹿のえさにしてもらうため「奈良の鹿

## アジアをよりよく知るフェスティバル



11月29日、第5回アジア・チャリティ・フェスティバルを大阪市天王寺区の大阪国際交流センターで開催しました。今回のフェスティバルはコロナ感染症対応のため、定員を普段の半分以上としたうえ、参加者には検温と、氏名・連絡先の記入をしてもらい、別室で食事をしてもらうなど、従来とは



異なるスタイルとなりました。  
アジア各国のプレゼンテーションや代表者とのパネルディスカッションを中心に、日本殺陣道協会さんの演技やゲーム大会などをしました。大変な状況での開催でしたが、アジアを少しで



もよりよく知る機会になったのではないかと思います。

特に、バングラデシ出身で盲学校の教員のビッショジト・ロイさんは、滋賀県彦根市から参加してくださり、自身が設立されたNPO法人「バングラ

## 「生きたアジア」市民大学が再開

新型コロナウイルス感染拡大予防のため延期を余儀なくされていたJAFSアジア市民大学の第2期が、5カ月遅れて、ようやく9月に開講しました。講座担当の先生方は、長年にわたりアジア各地を研究され、現地での関わりも深く、その成果が毎回の講義に遺憾なく発揮されています。熱い講義が盛り上がり、講義に続く討論の時間もあつという間に過ぎていきます。

本学はJAFS創立40周年の記念事業として2019年1月に開学。年間12回開催し、これまでの受講生はのべ226名に及びました。

アジアは今、新聞やネットで捉えきれないほど猛烈な勢いで動いています。先生方は、その背景の裏まで熟知され、それを惜しげもなく講じてくださっています。そこには先生のアジアに対する熱い思い入れや人生観が

第6回「インドネシアにおける日系企業の経営」。講師は日本インドネシア経済協会相談役の木下一さん。11月21日、大阪市

社会をつくるため、人々が意識的に共同する姿勢を育てるのがJAFS結成の基本目的であると。卓話も味わい深い内容でした。

(JAFS理事 齋藤公代)

## カラフルまつばら「子ども国際交流ひろば」

「初めて遊んだけど楽しい！」  
「うわー、めっちゃうまいやん！」  
「次はどの遊びにしようか？」

中学校のグラウンドに子どもたちの声が響きました。国際色豊かな街をつくる活動「カラフルまつばら」の一環



として11月21日、「第2回子ども国際交流ひろば」を開きました。  
参加したのは、外国にルーツのある子どもたちとその友達の小・中学生約90名と、保護者ら大人約50名です。グラウンドには、中国のチーマオチェン、フィリピンのシャトン、フランスのペタンク、日本のおじやみやけん玉、などでやねんすご六、大縄跳びなどの遊びの体験ブースが用意されました。

後半は、外国にルーツのある3人の青年からの聞きとりをしました。写真。言葉や文化の違い、周りの偏見から孤立感を味わったこと、その中で支えてくれる仲間がいたこと、そして自分のルーツに対する誇りなど、自分自身の体験を踏まえて子どもたちに伝えてくれました。真剣な表情で聞き入る子どもたち。自分の体験と重なったことや共感したことなど、目を輝かせながら感想を返していました。

「カラフルまつばら」は若い人たちにも広がっています。

(JAFS松原会長 橋本末子)

デシュ視覚障害者支援協会シユプノのお話を、テレビ放送の映像を交えてしてくれました。前ページの写真。我々も勇気をいただきました。  
(アジアン・チャリティ・フエスティバル実行委員長 伊藤勝)

にじみ出ています。

この「アジアの生きたた情報」がJ



## 地区会長が集い 共同意識強めた

11月7日、第1回のJAFS地区会長会が本部近くの中華料理店「徐園」で行われました。第1エリアから第8エリアまで、従来地区世話人会として活動してきた地区の活動を、より力強い組織をめざして各地区アジア友の会として新しく門出させたものです。

今後さらなる要となりJAFS活動の牽引役を担う会長ら出席した21名は、村上事務局長の卓話「JAFSの理念と地区活動の意義について」を聞いた後、テーブルごとに今までの地区活動報告と今後の抱負について語り合い発表しました。なかなか互いの意見交換や情報共有の機会がなかったので、今後もネットワークをつなぐ機会が必要と好評でした。

實清隆)

AFSの活動のパワーになります。その意味ではこの大学の持つ役割は大きいものがあります。『知は力』。今後も、当大学の講座を一層、充実させていく所存です。  
\*1月以降、第8〜12回(ベトナム、インド、タイ、韓国)を開催いたします。日程など詳しい内容は、ホームページをご覧ください。

(JAFSアジア市民大学学長

## 「もったいない」のキモチを社会貢献へ 集めています! 書き損じ・未使用ハガキ、切手、外貨

皆さまのご自宅に眠っているハガキ、切手、外貨をお送りいただけませんか? 63円ハガキが2枚集まれば、水くみから解放された子どもの学校給食1食分。45枚集まれば、1人の子どもが学校に1カ月就学できる費用になります。

コロナ禍でアジアからの支援要請は増加する一方、JAFSのチャリティ活動は制限せざるを得ない状況です。多くの方からのご寄付を感謝を以て頂戴している中ではありますが、このままでは従来の規模でのアジア支援が難しくなっています。

ハガキや切手、外貨を集めてくださる方が10人、20人、100人と増すことが、JAFSが「取り残された人たちに寄り添う活動」を続けるため

の、より大きな支えとなります。個人のほか、学校や職場などグループでも取り組んでいただけたら幸いです。

外貨は米ドル、中国元、ユーロ、韓国ウォン、香港ドル、台湾ドル、ベトナムドン、タイバーツ、シンガポールドル、インドルピーなどの紙幣・コイン。

送付先:

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14

肥後橋官報ビル5F アジア協会アジア友の会

「集めるキャンペーン」宛

※送料は、各自ご負担くださいますようお願いいたします。



新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）

2020年9月1日～11月30日

●社員会員  
辰西幹夫  
●賛助会員  
奥村文子／金田修治／沓野泰之／田邊政子／中島彩華／長尾公二／松田健志

●維持会員  
内田俊彦／沖田耕一／清水明子／實一穂／園田恭子／ダン・ティ・ゴク／橋詰英子／濱口守連／前田巧

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）

2020年9月1日～11月30日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費  
池田直樹／井上勇一／内山宏／大本和子／岡本圭司／小原純子／小原孝彦／小柳二郎／白方誠彌／田中久雄／寺西浩章／中嶋啓子／永島智子／中西武雄／ナリンダーシンセティ／服部道代／服部貢／福澤邦治／平瀬勢文／古谷裕子／松浦正／森梢／森本匡昭

●維持会費  
赤野孝一／浅尾佐江子／阿部恩／池田時造／石若達弥／市川秀一／伊藤義人／井上公男／井上邦子／上田慎子／植田延江／植村茂／宇田喜美子／内田俊彦／宇野和子／岡村遍導／岡本就介／沖田耕一／沖田哲男／小野孝博／片岡伸介／加藤洋／壁合桂子／河合忠和／河口正隆／川那辺操／北村真澄／木下四朗／小林仁美／小山西明／近藤恵子／佐藤高／佐藤根恵美／澤村和子／品木

吉明／清水明子／白國哲司／鈴木浩／園田恭子／辰巳桂子／田村京子／ダン・ティ・ゴック／辻井昌子／辻本栄一／辻本選子／辻本智美／戸田恭子／富永たけ／永江敦子／中尾和子／中谷悦子／中橋康治・真由美／永原幹男／中山康夫／西野節子／野井洋正／橋詰英子／橋本芳樹／原田佳子／姫野佐智子／福岡仁／福田平司／藤井いずみ／藤田高淳／古谷佳世子／前田恵／前田安太郎／前原良光／三島明美／水城実／水城美／水ノ上成彰／溝口治／溝瀨むつ躬／宮野京子／向井宏之／武藤三代子／宗形充弘／安田勝／矢野浩美／山口幸子／山地尚枝／湯浅禎也／横手美知代／吉田敬市／吉田樹央

●賛助会費  
秋元千佳／足立暁／荒谷静／生駒晴代／石田功夫／石山光子／市川晃／伊藤

恵理／岩岡幸衣／大塩節子／大野篤一郎／岡光子／お母さんの地球学校／小笠原達治／岡田能里子／岡本眞理子／奥村文子／越智和子／角谷道子／片田欣三／加藤朝子／金田修治／鎌田重明／神谷尚孝／岸野亮淳／喜多榮子／北野与志江／北原祐司／沓野泰之／久保真太郎／黒木昭子／後藤泰子／後藤理紗／小西紀代美／近藤蒼／近藤湊／近藤睦美／斉田眞理子／佐々木健児・ゆみ子／清水美知子／庄子幸子／新羅和子／菅洋子／鈴木通文／聖母奉獻修道会／瀬戸井初恵／田尾茂・ますよ／田中貴美子／田中啓／田邊政子／谷山美和子／辻本栄太郎／堤祐子／永井勝也／中川由美／中川亮／中島彩華／永菅裕一／中谷良二／中西美代子／中野通／中村滋／西川久美子／新田留美子／長谷川美穂子／花崎能理子／花房逸子／馬場順子／縄喜世多／林祐己／福岡陽子／舟崎和誠／堀内登久子／前原良光／松田和子／松田健志／松原悦子／松本沙耶香／三重野哲／三木あゆ子／皆世信二／宮本益見／三好和香子／村上五郎／森佳緒里／森原尚子／安富睦／八束庸子／山本宏昭／横田健／吉岡久江／若林茂美

●団体会費  
㈱クオリティデザイン／枚方・交野国際奉仕活動協会

●法人会費  
㈱ウォーターネット／仲栄通商㈱／武田病院グループ／中西産業㈱／日本労働組合総連合会 大阪府連合会／パナソニック㈱CSR社会文化部

●里親会費

荒谷静／飯田哲雄／石神慧美子／石神誠／伊藤恵理／岩岡幸衣／梅田祥仁／大須賀丕出子／大塚恵子／大原映子／岡光子／小笠原喜照／岡田能里子／小川誠／越智和子／角谷道子／笠谷寿美

Aviaot Daniel／谷口倫子／谷口陽子／谷阪洋子／谷藤果奈子／田幡民生／玉置拓／千田裕子／千葉悦子／長寛寺中村謙洲／塚口泰子／土屋りつ子／鶴見誠一郎／出口和子／土井清貴／東代清隆／東代節子／藤間孝子／戸田恭子／富永たけ／富岡昭夫／ドリアン・ランニング／中川咲子／中島和子／中嶋啓子／中島小夜子／中島節子／中島裕子／中西豊次／中野佳津子／中野為夫／桂子／中村孝／中村和義／中村匡／中村勤／中村博矢／中山浩子／中山康夫／那須トラビスト修道院／ナノ・インジャパンホールディングス㈱／二階堂美智子／西浦暢子／西川龍夫／西田貞之／西田祐子／西原八重子／西村節子／西村美和子／西本悦子／根津千枝子／延原修／野村和子／正栄寺萩野肇／萩原節子／畠山房子／畑中恵子／羽鳥東一郎／英由季／羽田孝彦／濱田辰雄／早崎鉄也／林越洋子／原田高嗣／繁和産業㈱東京営業支援グループ一／同 繁和産業㈱東京物資課／東野加代子／秀浦弘和／廣澤悦子／広谷悦子／福田愛／福西宗子／福原智恵子／房本晃／藤井真紀／藤田修一／藤原克彦／藤原正昭／船戸康夫／麓忠司／古谷佳世子／別府浄照／坊上信子／法性寺／細谷泉夫／細谷詩子／堀口節子／堀口富子／本庄紀子／前田みどり／前田美保子／立峰町田進／松浦弘樹／松浦有理子／松野光伸／松原直弘／松本幸子／松本武彦／三里健一／水城会計事務所／水口正樹／水島かなえ／水本裕子／溝口清子／南出道子／宮古聖ヤコブ教会／宮崎正子／宮本由貴／妙代和也／宗像千代子／宗本光義／村口ミヨ子／村田恭仁子／村中豊／毛利吉男／元橋亮治／森昭夫／森崎律子／森下正志／森田恵子／森田健太郎／森田康代／矢賀繁之／八木健次／安岡重高／安本啓子／八束浩一／柳田芳孝／藪下陽一／山内育子／山形和行／山口かをる／山口愼／山崎留雄／山澤寛子／山路英

／加藤朝子／チャリティーショップZAZAC／鎌田勝江／鎌田重明／北野与志江／北原恵美／北村晏一／木村征代／古賀旭／児下美恵／後藤雅子／後藤三津枝／佐伯裕子／佐藤理香／竺原恵美子／白神博子／瀬戸井初恵／田尾茂・ますよ／武内彩／竹田由美子／田中壽美子／田中誠一／谷村信彦／谷山美和子／長知子／辻本選子／筒井利弘／東代清隆／中川亮／中橋康治・真由美／中村智子／中山忠愛／西澤純／二反田静子／野井洋正／長谷川美穂子／畠平恵子／縄喜世多／JAFSハルハロ／姫野佐智子／福岡名津子／福岡陽子／藤原克彦／増田愛子／松村加奈理／水野礼子／三好和雄／三好和香子／武藤三代子／武藤祐介／森佳緒里／森下正志／森本秋子／山下由起／山本由起子／横手美知代／吉田幸子／吉田聡子／吉田暢子／吉田宏／和田幸子

●一般寄付

熱田親憲／池田直樹／石谷信英／磯本典子／大阪松下幸之助経営を学ぶPH P友の会／小原純子／チャリティーショップZAZAC／木村泰彦／柴村壽子／櫻井紘哉／篠原勝弘／ソフトバンクつながる募金／田中久雄／辻本選子／寺西浩章／徳永正和／富永芳郎／富松英二／永島智子／中島美恵／ナモナキピリオネラ／萩尾千里／福澤邦治／藤原正昭／舟橋君子／古谷裕子／眞砂哲志／松原正／南野紀美子／宮野谷篤／村上公彦／森本榮三／協家崇夫／ドリアン・プランニング

●井戸指定寄付  
高瀬屋布田店／鳥居建十／樋口雅軌／吉田清史／饒平名知幸

●井戸横立  
岡部雅子／JAFS宇治／JAFSぞうすいの会

子／山地尚枝／山下玉英／山下良一／山田園子／山中康／山梨薫／山野和子／山本久子／山本久／横井明子／横田浩／横手美知代／吉田聖作／吉田宏／吉村治子／吉用トモ子／余根田保／米山義盛／呂久呂／若林一民／協家崇夫／渡辺治彦

●九州地方豪雨被害緊急支援  
安藤和彦／植村隆彦／内木幸夫／内田博章／宇野博文／大槻勝／小野澤虎洞／笠原義弘／加藤陵子／カメラのナニワ夙川駅前店／婚礼儀式品渋谷／神原朋哉／三栄商事有限公司／佐々木遼／澤井秀介／曾野田啓祐／高橋良直／竹田淳一／田幡民生／土井清貴／中村孝／福島正信／福原智恵子／立峰町田進／松浦弘樹／村中豊／元橋亮治／藪下陽一／山崎佳代子／山梨薫／吉田素子／呂久呂／若林一民

●物品・日用品・食料品等  
天野澄子／石黒大圓／岡部雅子／小椋加代子／梶谷阿久里／サラヤ㈱伊賀物流センター／設楽宏幸／芝野照久／高橋美也子／東代清隆／中西豊次／平尾誠／山崎桃／吉田幸子

●井戸一基建設支援  
○ネパール  
エーゼル㈱／太田宜子／京都暁星高等学校

○フィリピン  
京都暁星高等学校

●アジア・ネットワーク奨学会費  
上野孝一／村上公彦

●アジア・フレンドシップ夢基金寄付  
坂口久代／辻本選子／ドリアン・プランニング／二野橋の会

●アジア・子ども支援寄付  
UMS合同会社／KONDOUNIMI／松尾慶治／饒平名知幸

●アジア植林支援寄付  
八木健次

●インド・HIV子どもと家族支援会費  
苗村登美子

●インド・ルディア支援寄付  
辻本選子

●コスモニケタン指定寄付  
藤澤京子

●チャイルドアカデミー指定寄付  
JAFS奈良地区／辻本選子／ドリアン・プランニング

●ネパール・ピトゥリ基金寄付  
島崎亨枝

●ネパール・ピトゥリ支援会費  
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／宮本博幸

●ネパール・子ども夢基金  
大原映子

●ネパール地震被災者支援寄付  
今枝美弥子／八木健次

●フィリピン障害者指定寄付  
中谷誠

●フィリピン台風被災者支援寄付  
大本和子／ドリアン・プランニング／八木健次

●フレンドシップ基金寄付  
旅は道連れ会

●学校環境整備・建設支援寄付  
豊野保育園／福永有花／横田美智子

●助成金  
○バン格拉デシュ植林・環境教育連合・愛のカンパ

○ネパール新型コロナウイルス緊急支援  
関西NGO協議会

●新型コロナウイルス緊急募金  
青木洋介／秋山タカ子／穂山常男／浅井聡子／浅沼暁子／浅野直人／阿部咲子／荒川鉄也／栗野アツ子／安藤謙治／安藤和彦／安藤幹雄／幾合眞規子／池田美奈子／池田善行／生駒晴代／石井清隆／石泉ふれあい味噌工房／石田和子／板谷静夫・博子／出雲健一／伊藤亮三／井上淳子／今枝美弥子／今中安紀／今中勲／今村たえ子／今本智行／岩本郁子／SWEDGE／上野孝一／東大寺真言院上野道善／上村いつ子／植村隆彦／氏家俊治／宇田和博／内木幸夫／内田博章／鳴地道俊／宇野博文／梅本友子／円頓寺／生石清子／大岩典代／大木洋子／大隈章・禎子／大島久子／大杉利幸／太田勝／太田真知子／太田康彦／太田宜子／大谷英一／大



## ● 関西電力労働組合京都地区本部

エネルギー産業に携わる労働組合として地球環境保全活動を通じ、社会貢献活動に取り組むとともに、組合員のボランティア意識の醸成や社会の一員として視野を広げることとを目的に、国内外における幅広いボランティア活動に取り組んでいます。

これまでに、国際ボランティア活動としては、平成9年

のフィリピン「飲料水パイプライン建設」にはじまり、ネパールでの植林ワークショップ（4回）やバイオガス建設ワークショップ（6回）を行い、のべ149名がボランティア活動に参加しました。

私たちは、地球環境保全活動や地震などの天災による被災地域への復興支援のボランティア活動を行い、人々の生活と命を守るため、支援を必要とされる方々のために、今後も継続的な活動を展開していきたいと考えております。

## 地球環境の保全や災害復興支援ボランティア



京都市下京区塩小路通烏丸西入579

☎ 075-361-6959

執行委員長：上尾寅彦

副執行委員長：佐伯敏男

## 新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

## 井戸を贈る運動が縁で海外活動や震災復興



大阪府門真市大字門真1006

☎ 06-6902-9301

中央執行委員長：

福澤邦治

本会（略称PGU）とアジア協会アジア友の会との関係は、前身の一つである松下電器労組が1981年に始めた「インドに井戸を贈る運動」が起源となり、環境保全活動や海外ボランティアなどに取り組んできました。

現在の社会貢献活動は、社会課題の解決や、より良いくらしの創造と人々の幸せ、社会の発展に貢献することを目的として、様々なボランティア活動や国内外における災害救援のカンパ活動、外部団体の社会貢献活動への支援などに全組合員で取り組んでいます。

なかでも、アジア協会アジア友の会と連携して東日本大震災復興支援のボランティア活動とあわせたスタディツアーを毎年開催しています。

今後も組合員の国内外の社会貢献に対する意識をより高め、社会のお役に立っている活動に挑戦し続けたいと考えています。

## 環境コラム

### 代替肉大豆ミート

先日某コーヒーチェーンで、代替肉大豆ミートのハンバーガーを見つけました。菜食の飲食店が増えている昨今ですが、チェーン店の商品としては初めて見たので、喜んで食べてみました。美味しいのですが、肉感は薄くあっさり味。野菜や魚とともに肉も好きな私には物足りないですが、取組みはすばらしいと思いました。その後、某バーガーチェーンも植物原料の代替肉バーガーを今年発売予定と知り、さらに調べると、実は他のバーガーチェーンやコンビニでも既に昨春から様々な調理済み代替肉食品が売られているようです。

植物性代替肉は各社いろいろな製法があり、植物たんぱくを肉の様な繊維状に加工するなど食感の工夫や、肉の味に近づけるために加える物質の研究など重ねているようです。未調理食材としての代替肉大豆ミートや、小麦たんぱくのコーファー（言うなれば生麩）もネット販売や自然食品店で購入できます。また実は、豆や小麦を代替肉に加工せずとも、高野豆腐で作る唐揚げもどき、車麩を豚肉代わりに使う角煮や炒め物など、様々な肉もどき料理レシピもネット上に紹介されています。きっと元々精進料理の食文化があるからですね。

私もスーパーで某豆腐料理店の「大豆肉のしぐれ煮」を見かけて買ってみました。精進料理の味でした。代替肉ソーセージやハムも大手メーカー

から売り出されていると知って探したものの、残念ながら5店回っても有りませんでした。自然食品店には大豆ミート食材としてハンバーグ、ひき肉、チキンナゲット、鶏肉もどきがありました。

そもそも代替肉の動きが始まったのは、伝統的宗教的な菜食者と別に、欧米で近年、健康や動物愛護の観点、環境意識からの菜食者が増えているからです。人が穀物や豆を直接食すのに比べ、それを餌とした肉から同じたんぱく量を摂取する方が、より多くの水・土地・肥料・エネルギーを要し環境負荷が高いのです。そして鶏<豚<牛の順に多くの餌が必要で環境負荷が高くなります。動物の呼気中のCO<sub>2</sub>やメタン、糞からのメタンは温暖化原因でもあり、放牧による森林破壊もあります。

これら環境負荷も分かった上で、私は肉食をゼロにはできません。洋食に植物たんぱくを取り入れるには代替肉が必要としても、元々畑の肉として豆を食べる和食や中華では、加工せず豆のままの方が環境負荷は低いとも思います。肉でなければ摂りにくい栄養もありますし、当面私は環境にも財布にもやさしい肉として牛より豚、豚より鶏を一層選び、森林破壊をしていないか産地を確認し、代替肉より豆や豆腐を食したいと思います。皆様もこんな背景を思いながら、代替肉を一度味わってみられては？（JAFSスタッフ 川本 裕子）

## 募金箱「命の水を届けよう」

「命の水を届けよう募金箱」を用いてアジアに井戸を贈る活動に参加いただけませんか。募金の50%を井戸設置費用、50%をJAFSの活動継続のための活動・運営費とさせていただきます。参加くださる方に募金箱をお送りします（送料はご負担願います）。Tel：06-6444-0587

## 編集後記

い い 夫婦の日の11月22日、大阪のホテルの教会で甥の結婚式。コロナ禍で披露宴抜き。参列の親族は計18人で、神父の祝福なども圧縮され式典は20分、親族紹介も含め1時間で全て終了。参列者がマスクを外したのは記念撮影の一瞬だけでした。（督）

国 民の7割がワクチン接種として、コロナ以前の生活ができる」という記事を読んだ。しかし「マスクをしなくてもよくなるわけではない」とも付け加えられていた。フー。（和）

去 年はヒガンバナが10月に入ってもまだ咲いていました。秋のバラはほぼ1カ月遅れの11月末になってやっと見頃を迎えました。地球はどこまで温暖化するのでしょうか。恐ろしい。（黒）

11 月末のアジアン・チャリティ・フェスティバル。予想以上に多くの留学生に参加いただき「今年はコロナで楽しいことがあまりなかったの、とてもいい思い出になった」との感想を聞きとても嬉しく思いました。（裕）

海 外の仲間がコロナに感染、シヨックの大きさが電話の声で想像できる。飛んで行って慰めることが出来ないこともコロナの併害。宗教によつては神さまである干支の牛が、皆へ幸を運んでくれること強く願う。（典）





## 募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で  
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階  
☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp  
URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2021年1月 144号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦  
広報企画委員長：法花敏郎  
編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善  
編集スタッフ：熱田典子、岩崎準一、大本和子、柿島 裕、  
金井英夫、川本裕子  
印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



HPもご覧ください

▲ネパール、カトマンズのシナマガル・スラムで、新型コロナウイルスから身を守る事ができるよう、手洗いなどの衛生指導を受けに来た幼い少女Ⅱ  
11月4日、9ページ参照

▲表紙の写真 スラムの子らが学ボインド、マハラシュトラ州ナグプールのチャイルドアカデミーに新校舎がほぼ完成し、子どもたちを集めて、新型コロナウイルスから身を守る啓発活動が始まったⅡ10ページに記事